ISSN 0285-6352

日本語と日本文学

第 29 号

坂上郎女の枕詞の性格 ……白井伊津子……(1)
——家持の方法の前提として——

〈虚〉の文学から〈実〉の文学への凝視 ……鄭　炳浩……(13)
——二葉亭四迷の文学論における「真理論」の成立の背景——

従軍文士の渡韓見聞録 ……中根　隆行……(29)
——日清・日露戦争期の〈朝鮮〉表象と与謝野鉄幹「観戦詩人」——

野々宮の恋愛はなぜ実らなかったのか ……呉　俊永……(43)
——「ベーコンの二十三頁」から読み解く〈恋愛〉と〈学問〉——

谷崎潤一郎『魔術師』における浅草 ……張　栄順……(57)

太宰治『待つ』の教材としての可能性 ……山下　直……(左 1)
——内容と表現の接点への意識を喚起するための導入教材——

小砂丘忠義におけるプロレタリア教育の影響と
「表現技術」指導 ……飯田　和明……(左11)

順接確定条件の論理構造 ……安　善柱……(左21)

連体詞「ある」の統語的位置 ……松本　哲也……(左31)

平成 11 年 8 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙三十枚（一万二千字）程度。ワープロ原稿の場合はフロッピーを添えて御投稿ください（原稿とフロッピーは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

〒305-8571 茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学文芸・言語学系事務室内
『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものであります。従いまして、本誌の一層の充実は、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただいております。御了承ください。

編集後記

本誌は従来六、七篇の論文を収めていたことは読者も御存じのところ。学会の雑誌制作の予算と印刷代とを兼ね合わせると、その分量が落ち着き所であった。しかし最近、大学院学生の意識の変化から、積極的に投稿する論文が多くなり、従来の体裁では物足りない思いがするようになった。他の学会誌を見ても、掲載論文数が多くなるのがどうやら傾向となってきたようで、またその方が読みごたえがあるように思われる。そこで本誌も学会の予算の範囲内で掲載論文の本数を多くできないものかと考えた。近年の印刷技術の革新的な進歩からそれが可能だということになり、前々号（二十七号。予算をはるかにオーバーしてしまったのは委員長の責任）に引き続いて九篇の論文を掲載することにした。ただしもちろんのこと、投稿論文をすべて掲載するというわけではない。本号にはOBの論文二篇、博士論文の一章分の論文一篇が収められている。いずれも優秀な論文として読ませていただいた。本誌がより充実するためには、新たな学問を切り拓こうとする意欲に満ちた論文が望まれる。その発表の場を拡充することが学会誌の使命だと思う。読者の評価を願う次第である。（名波記）

平成十一年八月二十五日印刷
平成十一年八月二十五日発行
〒305-8571 茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学　文芸・言語学系内
編集・発行　筑波大学国語国文学会
代表者　池内輝雄
印刷所　佐藤印刷株式会社
☎〇二九八（五五）七六二二